

尼崎市ユース相談支援事業 事例

* 個人の特定を避けるため、複数の事例を組み合わせています

・「働かない」と思っているが動いていない 20 代前半の青年

〈相談経緯〉

ご本人は不登校の経験の後、高校卒業後進学も就職もされておらず、自宅で過ごしておられました。ご家族からの相談を受け、本事業の利用をご本人も承諾されました。

〈支援経過〉

初めての訪問時は口数少ない中、好きなことや1日の過ごし方などのお話を伺い、二回目以降はゲームやおしゃべりをしながら、ご自身の思いを伺いました。

自宅での面談から「いくしあ」への来所面談というステップを経て、「職業準備性チェックシート」等を使って、自身を客観的に捉えてもらいながら、一緒に次のステップを設定し、「初めてのところに行く」「集団の中で過ごす」など、ご自身で目標を設定されました。目標達成にむけて「こうすればできる」を自分で考えて伝えてもらいながら、一つ一つ実現をしていきました。

〈現在の状況〉

最近では就職支援の他機関なども併用したり、集団プログラムや職場見学等への参加を経て、働くイメージをつくったり職業の選択肢を増やしていくことに本人なりのペースで進んでいってられます。